



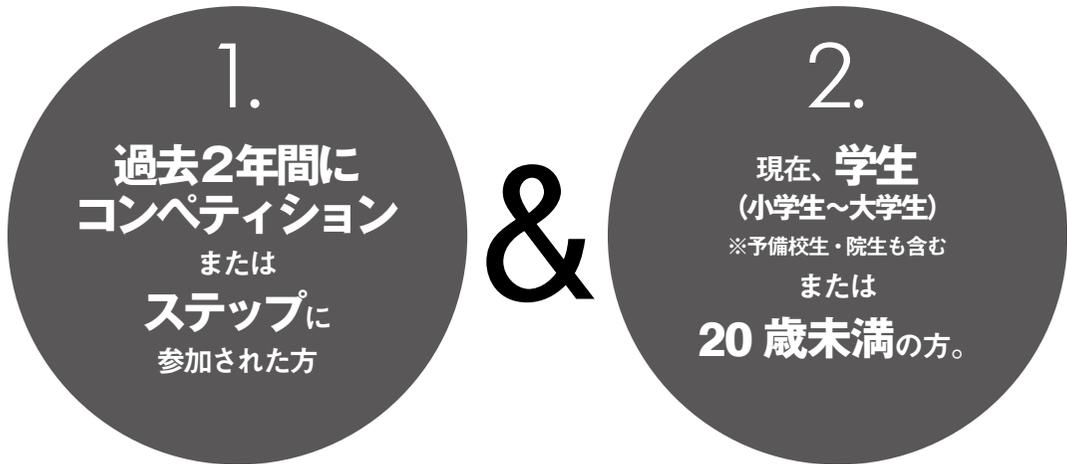
【特集 2】

ピティナ・アクセスパス 聴く子は育つってホント？

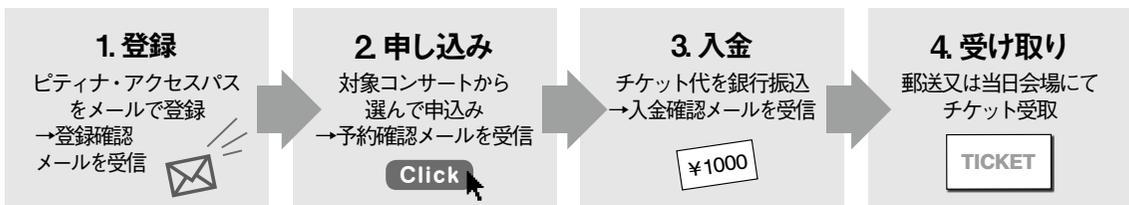
ピティナ参加の学生のためのコンサート特典・アクセスパスが 10 月よりスタートした。ピアノを学ぶ子どもたちには、ピアノに向き合って練習するだけでなく、感受性豊かな若いうちにできるだけ多くの「一流の音楽」に触れる機会を持ってほしい — そんな願いにご賛同いただいた音楽業界の全面的なバックアップで、ガヴリリェク、コプリン、上原彩子、小菅優、夢のようなラインナップを、一律 1,000 円で聴くことができる。アクセスパスを通して「コンサートを聴く」ことに焦点をあててみよう。

■ アクセスパス対象者 (一律 1000 円で対象公演の申込みができます)

下記 2 つの条件に両方あてはまる方がピティナ・アクセスパスに登録できます。※ 毎年度登録の更新が必要です



■ アクセスパス申込方法



※アクセスパスは本人のみ有効です。席種の指定はできません。同伴の方は一般席をあわせて申し込むことができます。その場合、アクセスパス席はできるだけお近くのお席をご用意致します。

申し込みはこちらから！

ピティナアクセスパス

検索

www.piano.or.jp/concert/accesspass/index

アクセスパス対象公演 (2008/1/15 現在：随時追加されますのでお楽しみに)



• 2/8、10 ジョナサン・ビス (大友直人指揮・東響)
2/8 サントリーホール、2/10 ミューザ川崎シンフォニーホール

• 2/13 ジョナサン・ビス ピアノリサイタル
東京オペラシティコンサートホール



• 2/15 ボリス・ベテルジャンスキー ピアノリサイタル
浜離宮朝日ホール



• 3/1 児玉桃ピアノ・リサイタル
彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール



• 3/14、16 ボリス・ベレゾフスキー (下野竜也指揮・読売日響)
3/14 東京芸術劇場、3/16 サントリーホール



• 3/18 上原彩子 (G. ノセダ指揮・BBC フィルハーモニック)
東京オペラシティコンサートホール

• 3/22 ボリス・ベレゾフスキー&スラヴァ&サヴィエンコ
東京オペラシティコンサートホール



• 3/23 マーティン・ヘルムヘン ピアノリサイタル
トッパンホール



• 4/29 関本昌平 (藤岡幸夫指揮・関西フィル)
ザ・シンフォニーホール



• 5/3、4、31、6/1、7、14 ウィーン少年合唱団
サントリーホール



• 5/17 リーリャ・ジルベルシュテイン (H. スターン指揮・東響)
サントリーホール



• 6/3 エレーヌ・グリモー (P. ヤルヴィ指揮・フランクフルト放送響)
サントリーホール



• 6/6 ポール・ルイス ピアノリサイタル
トッパンホール



• 7/1 コンスタンチン・リフシッツ ピアノリサイタル
紀尾井ホール

今回の対象公演のキーワードの一つは「ロシアン・ピアニズム」。19世紀後半から20世紀にかけてピアノ界を席卷し、数多くの大ピアニストが生まれたロシア。世界最高レベルの音楽院、イモラ音楽アカデミーで教授を務めるボリス・ベテルジャンスキー、チャイコフスキー国際コンクールの1990年優勝者ボリス・ベレゾフスキー、そして、ピアノ愛好家の間で特に評価の高い、深い精神性と個性の際立つコンスタンチン・リフシッツ。80～90年代に豪快な技巧と爽やかな音で魅了し、今はアルゲリッチなどとも活動する女流リーリャ・ジルベルシュテイン。4人の中に息づく「ロシアの伝統」は、きっと心の奥に何かを残してくれるはずだ。

次に、中高生の特に女の子におすすしたいのが、**児玉桃**と**上原彩子**。男の子のようなダイナミックな和音やフォルテが羨ましく、壁にぶつかる学生の時期、ぜひ、日本を代表する2人の女性ピアニストを聴いてみてください。華やかな体、小さな手がどんな音色と響きを引き出すか。壁を乗り越えるヒントがそこにあります。

ヨーロッパで、まさに今、最高レベルの評価を受けている「旬」のピアニストも続々登場。コンクール歴はほとんどないものの、音楽一家に育ったアメリカのサラブレッド、**ジョナサン・ビス**の洗練された清らかな音楽は一聴の価値あり。フランスの女流**エレーヌ・グリモー**は、ロマン派の作品に真価を発揮し、十代から演奏活動を広く行っている実力派。アクセスパスは、徐々に全国展開を目指して準備しています。今回は大阪公演を追加。お馴染みの**関本昌平**(03 グランプリ)が、モーツァルトで成長した姿を披露します。また、来日のたびに大きな感動を与える、伝統の「ウィーン少年合唱団」が番外編的に組み込まれているのも嬉しいところ。すべての音楽の原点は「声」。最上質の「声」が、「音楽を呼吸する」ということの本質を教えてください(08/01/10)

アクセス・パス生みの親、

ヴァンクーバー・シンフォニー・J. アレキサンダー氏に聞く

ピティナ・アクセスパスのアイディアの源泉は、カナダのヴァンクーバー・シンフォニーのVSO ACCESS PASS。ヴァンクーバー・シンフォニーの公演を学生向けに10ドルで提供するコンサートだ。



Jeff Alexander氏

—— VSO アクセスパスはどのようなきっかけで始まったのでしょうか？

アレキサンダー氏 ヴァンクーバー・シンフォニーでは、以前にも学生割引のプログラムはありましたが、チケットは15ドルで、しかも公演当日に舞台から一番離れた席を取るために並ばなくてははいけな

いというシステムだったので、あまり魅力的なものではなく、結果的に、学生の聴衆が少なかったのです。そこで学生にもっとコンサートに足を運んでもらおうと、チケットも10ドルに値下げし、インターネット上でのアクセスパスの

取得を可能にし、事前のチケット予約をするという、新しい試みを行いました。席も、もっと舞台が良く見える席を用意しました。

—— アクセスパスを始めてから、聴衆の変化はありましたか？

今は3000人以上の学生が登録しています。小学生から高校生、大学生まで幅広い学生層が定期的に足を運んでくれています。多くの学生から感謝しているの声を頂くだけでなく、先生からも、自分の生徒が進んでオーケストラのコンサートに足を運ぶようになった、と喜ぶ声も多く頂いています。

(President & General Manager, Vancouver Symphony)



アクセスパス公演に行ってきました!ユーザーインタビュー

練習している曲の演奏を生で聴いて感動

出口比呂子先生・出口千尋さん (14歳)・
出口三幸さん (11歳)・鈴木潮音さん (9歳)

'07.11.6 アレクサンダー・コプリン / 浜離宮朝日ホール



娘さんと生徒さんの計4名で
来場された出口比呂子先生。

—— 来場のきっかけは?

出口先生 娘や生徒を時々コンサートに連れていったりはしているのですが、よいホールでよい演奏のものをなるべく多く聴いて欲しいと思っても、たくさん行くのは難しいですよ。ホームページでアクセスパスの記事を見て、これはピアノを学習する生徒を育てる意味でとてもいいと思って早速申し込みました。

—— 聴いてみてどうでしたか?

鈴木さん 指もよく見えたし、音がすごくきれいでした。

千尋さん ちょうど同じベートーヴェンの4番を練習している所なので、今日聴くことができてとてもよかったです。

出口先生 こんな素敵なコンサートに子どもたちを連れて行けるのであれば、毎月でも来たいですね。今度は他の生徒たちも誘って来たいと思います。



教室の友達は コンサート友達にも

大木奏弥くん (9歳) 親子
高野雅大くん (10歳) 親子

'07.11.6 アレクサンダー・コプリン /
浜離宮朝日ホール

—— どなたと一緒にいらっしかったですか?

大木さん 一緒に教室に通っているお友達同士の親子で来ました。デュオでコンペに出たりもしている仲良しです。メールニュースで知り、2人とも見ていて「一緒に行こう!」と。

—— 今回のコプリンの公演を選ばれた理由は?

高野さん 世界でも有数の響きと言われる浜離宮朝日ホールで、きれいな音の響きを聴かせたかったこと、それから、今日のような曲はまだ弾けません、ちょうどショパンを弾き始めた頃なので、ショパンのいい演奏を選びました。子どもたちにどのくらい伝わるかわからないけれど、少しでも印象に残ればと思います。

—— 聴いた感想はいかがでしたか?

奏弥くん 音がすごくきれいで、ピアノの音と思えなかった。大きい音と小さい音の差がすごく出ていてびっくりした。

大木さん またぜひ他の公演も一緒に聴きに行きたいです。



色々な演奏家の表現 にいくつも出会える魅力

法木杏奈さん (19歳)

07.12.1 小菅優×東京交響楽団
サントリーホール

—— アクセスパス公演にたくさん申込みれていますね。金子彩子先生から伺ってホームページを見たらすごいコンサートがたくさんあったので、すぐに申し込みました。今、6公演申し込んでいます。

—— 以前から、コンサートはよく行かれていたのですか?

いえ、実はほとんど行っていませんでした。年に1~2回くらい。行きたいけれど学生には高いし、聴くのなら色々な人の演奏を聴いてみたいし。アクセスパスだと、対象公演がどれも素晴らしいピアニストの顔ぶれで、それがいくつも聴けるというのが、とても魅力的でした。オケは高くてもっと行けなかったのが、これがきっかけで聴けて、とても感激です。

—— 実際にいくつか聴いてみてどうでしたか?

自分でピアノを弾く際にもとても刺激になりました。会場で目の前で聴くとその人の表現力の違いがより豊かに感じられるので、色々な人の表現力を盗むことができ、自分の演奏にも生かせるのが嬉しいです。



迫力があって びっくりした

松崎加奈さん (8歳) 親子

07.12.1 小菅優×東京交響楽団
サントリーホール

—— 今日の公演はいかがでしたか?

松崎さん 私が小菅優さんのファンなので、メールニュースで目に留まり、アクセスパスのページへ来ました。CDはいつも聴いているのですが、協奏曲を生で聴くのは初めてで、我を忘れるくらい感動しました。娘も、危ないかと思うくらい身を乗り出して興奮して聴いていました。

加奈さん 迫力があってすごかったです。ピアノなのに、自分がやっているのと全然違ってびっくりしました。かっこよかったです。息をするのを忘れていたみたいでした。

—— 普段どのようなコンサートに行かれますか?

松崎さん やはりピアノ中心です。室内楽やオケでも、ピアノが入っているものだと取っ掛かりがあって行きやすいです。子どもに聴かせてあげたくても、1人ではいけませんからどうしてもチケット代も2倍になってしまうので助かります。せっかく始めたピアノなので、練習ばかりで嫌にならないよう、時々こうした素晴らしいコンサートに来て、ピアノが好きでい続けて欲しい、と思っています。

聴きどころは？ アクセスパスをご提供頂いた主催者に聴く

ジャパン・アーツ首都圏公演本部：松濤エリ子さん 本物の芸術が放つ感動を直接実感！



—— ガヴリリユク、上原彩子、ブロンフマン、ビス等多くの素晴らしいピアニストをご紹介いただきました。アクセスパスへご賛同いただいたポイントは？

何といっても、「子ども達がピアノを弾くだけでなく、いい演奏を聴くことも大切」という企画の意図に心から賛同致しました。そして、そのために我々に何が出来るか、という実現に向けての具体的なご提案にもご協力しよう、と思いました。

—— アクセスパスの対象者の学生や、指導者の先生方へのメッセージを。

ピアノを弾く喜び・作品を演奏し表現する喜びは、一人ピアノに向かっているだけでは、十分体験できているとは言えないでしょう。いい演奏は、演奏者と聴衆が同じ空間で共有してこそ味わえるものです。その機会を一人でも多くの方々にご提供できるお手伝いが、このアクセスパスだと思います。まずは、本物の芸術が放つ感動をまっすぐに受け止め、直接味わって下さい。そして、その実力を皆さん是非ご自分で確認して下さい。いい演奏を聴くことは、必ずご自身の演奏に反映されます。ぜひ積極的にご活用下さい。

東京交響楽団営業部：竹内啓さん 目で見て音楽の動きがわかる



—— 小管優、ビスなどとのピアノ協奏曲の公演をご提供いただきました。

オケのコンサートは、どうしても学生にとっては少し割高となってしまう、なかなかチケットを安くはできませんが、「アクセスパス」の場合、「ピアノを学習している学生」ということで対象と目的がはっきりしているので、これがオケと学生さんとのいい出会いになればと思いました。

—— ピアノ学習者に、オケはこんな所に注目するとおもしろい、というポイントは？

オケの中に何か好きな楽器を見つけて、今何をやっているのかな、と追いかけてみるのもおもしろいかもしれませんね。CD や頭の中ではどうしても旋律部分ばかり思い浮かべがちですが、実際に見てみると、実は旋律を担当しているのは1st ヴァイオリンだけで、他は全部リズムを刻んでいたりと、全体が同じ動きをしている *tutti* や、異なる動きが合わさって音楽を作っている部分と、目で見て音楽の動きがわかる所もおもしろいと思います。ピアノでは1人でやっていることが、オケだとそれぞれ違うことをやりながら100人で1つの音楽を創っているということが実感できると、音楽をする上でも収穫があるのではないのでしょうか。

フジテレビ事業局：井瀧信吾さん 国際コンクールのホットな緊張感を再び！



—— ロン・ティボーガラのアクセスパスは、30枚すぐに完売でした。

ロン・ティボー国際音楽コンクールは1943年から始まりましたが、フジテレビでは1986年からメセナ活動としてコンクールへの支援を続けています。ガラコンサートも今回で19回目になりますが、こんなに反響の大きかったのは初めてです。ピティナのWebレポートや、日本人が15年ぶりに優勝したこと、のたためて人気のラフマニノフの2番を弾くこと、諸要素があると思いますが、何と言っても田村響くんの演奏と人柄、姿勢が日本の皆様へ伝わったのが一番でしょうね。私も現地入りしていましたが、彼なら4位でもガラに呼びたいと思っていました。

—— 国際コンクールのガラを聴く魅力とは？

田村響くんと2位のキム・ジュンヒくん、若い2人の、コンクールの熱気そのままのホットな演奏を聴いていただきたい。コンクールで演奏したのと同じ曲を、覇者として日本の方の前で披露するわけですから、コンクールの時の緊張がまた蘇って、練習にも気合が入ると言います。2人はまたライバル同士でもあるわけですし。そんな緊張感を同じ会場でぜひ味わってください。

読売日本交響楽団事業課：江上裕さん 対照的なピアニストの聴き比べ



—— シーララ、ベレゾフスキーと読売との共演、その聴き所は？

対照的な二人のピアニストを聴き比べてみていただけたらと思います。シーララは奇をてらうタイプではなく、繊細なタイプ。それに比べてベレゾフスキーは、ロシアの大地で育った豪快なタイプ。両者とも非常に高いテクニックをもった優れたピアニストで、若い頃から主要なオーケストラとの協演を重ねているベテランですので、きっと読売日響とのアンサンブルは完璧なものに仕上がると思います。

—— アクセスパスはピアノを学ぶ学生たちが対象ですが、

ピアノを勉強されている皆さんには、やはりオケとピアノとのアンサンブルの妙技を楽しんでいただきたいです。読売日響の正指揮者の下野竜也さんは「音楽を学んで行く過程において、生の良い音楽に接することが一番の勉強になった」と仰っています。「次代を担う世代の人たちに、より良い音楽に接してもらう機会を増やしたい」それがアクセスパスだと理解しました。善意の押し売りでないその活動により、多くの若い人たちが音楽に接する機会が増えることを期待しています。

二宮裕子先生(ピティナ副会長)・関本昌平さん(2003 グランプリ)
ロ一磨秀さん(2007 福田靖子賞)・小林愛実さん(2004.Jr.G 金賞)

コンサートでの出会い・発見

私の原点——二宮裕子
中学生の時の
イタリアオペラとの出会いが



——コンサートにはどのくらい行かれますか?

関本 今はあまり行きませんが、高校生の時などは1~2ヶ月に1回くらいは行っていました。父が好きだったので、小さい頃からよくCDを聴いたり演奏会へ連れて行ってもらったりして、自分が弾いている以外のレパートリーへ興味を持つきっかけになったと思います。

小林 学校の鑑賞会も入れると最近では月1~2回行っています。先生がよくコンサートに行くので、時々連れていってもらっています。この間も皆でガヴリリユクを聴きに行き、聴いたことのない音楽と技術が「すごい!」と思いました。

ロ一 僕は月1,2回行っています。最近では特に多くて、ピアノソロの他に、コンチェルトやヴァイオリン、

バレエやオペラにも行きました。

二宮 私はかなり行っている方だと思いますが、週に2回行く時もあれば時期によるので、平均すると月2回くらいかしら。

——忘れられないコンサート体験はありますか?

関本 高校1年か2年の頃、ウゴルスキーのピアノを鎌倉で聴いた時が、一番衝撃でした。ペトルーシユカを

練習していた時、家にポリローニのCDしかなかったので、ウゴルスキーのCDを買ったんです。そうしたら聴いたことのないような音をいっぱい出して、これはどんな人だろう?と思って、来日の時に聴きに行きました。まるでピアノじゃないみたいでした。音、空間が本当に魔法にかかったみたいで、ピアノを聴いて初めて涙が出ました。

二宮 私もその来日の時、別のホールで聴きましたが、素晴らしかったですよ。リストの口短調ソナタがこんなにも美しい曲だとは思わなかった、というのを覚えてます。私にとって、中学生の時のオペラとの出会いが、初めて心から「音楽がすごい!」と思った原点でした。イタリアオペラのジュリエッタ・シシオナートの『フィガロの結婚』を観て、音楽の魅力の虜になり、本気で歌手になりたいと思い、一人で発声法を真似したほどです。

——コンサートでは、どんな所に注目していますか?

関本 僕は「間」の取り方や、音色の変化を一番注意して聴いていますね。自分のイメージや解釈とあっているか、違っても「いいな」と共感できるかなども考えながら聴きます。間の取り方というのは、CDで聴くのと、ホール



その空間での間の取り方に
注目します——関本昌平



で同じ空気にいる時とでは全く違いますから、生でない
とそういう所は分からないですからね。音や音楽がその
場でどれだけ生き生きとしておもしろいか、それも重要
です。

小林 同じ曲でも、人それぞれ感じ方が違うので、その
人がどう感じているかを聴いていると思います。

ロー 僕は最近ガヴリリユクの演奏に感動して、久しぶ
りに全曲入り込んで聴きましたが、こういう風に弾いたら
おもしろく聴かせられるんだとか、音楽に説得力が持た
せられるんだとか、そういう所を感じながら聴いていま



こんな風に弾いたら
おもしろいんだという
発見——ロー磨秀

ました。ほんの一瞬の所でもそう思
える所があると「聴いてよかった」
と思うし、それがいっぱいある演
奏会がいい演奏会だと思います。
聴いた曲を家に帰ってすぐに初見
で弾いてみる時もあるし、そうで
なくても頭の片隅にずっとあって、
いつか出てくることもあります。

二宮 そうね、その時によって全
く違う行動を取る時がありますね。
学生の時、ホロビッツの素晴らし
いリズム感到感動して、「これを
缶詰にしてそのまま取っておきた
い!」と急いで帰路につき、その
曲を弾いたら、一晩だけでしたが
その通りに弾けました(笑)。逆
にルービンシュタインを聴いた時
は、その素敵な余韻にひたりたく

て、リビングのソファ
に座ってワインを片手
に、一音一音、心の中
でもう一度彼の音色を聴き
直しました。

どちらも学生席で5ドル
位でした。

——ピティナでア
クセスパスを始めたこ
とを、どう思われますか?

二宮 すごくいいアイ

ディアだと思います。こういうこ
とをようやく日本でも始めたか、
と思いました。サイトウキネン
の時、小澤さんは必ず松本のバンド
を指導します。「このうちの1人
でもいいから、名手が出てくれたら
こんな嬉しいことはない。たとえ
ならなくても、好きになってくれる
だろう」と言っています。それと
同じですね。こういう曲があるんだ、という出会いや、私
達がそれぞれ昔受けたような衝撃的な「音楽」との出会い、
そういうものに子どもはいつどこで出会うかわからな
いし、その子がどう感じるかわからない。ただ、生徒が
新鮮な音に心を洗われ、何かを見つけ、目覚めてくれれば
いいと思います。

——ピアノを学ぶ子どもには、どんなコンサートに
行って欲しいですか?

二宮 指がよく回るとかじゃなく、魅力ある音、全体を
通して惹きつけるものがあるコンサートを体験してもら
いたい。絵画でもそうですが、「一級品」に生で触れる
ことが大事です。それは、ピアノに限りません。私は音
楽の原点は「歌」にあると思っているので、オペラをぜ
ひ聴きに行つて欲しいですし、チェロやヴァイオリンなど
の違う楽器を聴いて、耳と心を育ててもらいたいと思
っています。

(取材・構成／小野千草・黒木真紀子)

その人なりの 曲の感じ方を聴いています

——小林愛実

